

分野別基本計画

新たな魅力に 挑戦するまち

基本計画の見方

基本計画は、施策ごとに見開きで整理しており、以下の8項目を記載しています。

| 項目 | 記載内容 |
|-----------|--|
| ①施策名 | 施策番号と施策名を記載しています。 |
| ②関連するSDGs | この施策と関連が深いSDGsのゴールを記載しています。 |
| ③目指す姿 | 10年後、この施策で実現を目指す将来の姿を表現しています。 |
| ④現状と課題 | 目指す姿を達成していく上で前提となる、現状や課題を整理しています。 |
| ⑤指標 | 施策の進捗管理を行うための数値指標を記載しています。基本的に施策の展開方向ごとに1つ以上の指標を設定しています。 |
| ⑥施策の展開方向 | 目指す姿を達成していくための、今後10年間で実施していく事業の方向性を示しています。 |
| ⑦共創の考え方 | 事業者・市民・団体・行政が連携して施策を実施するための基本的な考え方を記載しています。 |
| ⑧用語解説 | 難解な用語の解説を記載しています。 |

01 観光・歴史文化・スポーツ・産業
新たな魅力に挑戦するまち

① 観光

③ 目指す姿 **自然・歴史・文化に彩られた 観光のまち**

④ 現状と課題

風光明媚な三河湾に代表される自然、抹茶やうなぎなどの産物、一色大燈籠や鳥羽の火祭りなどの伝統文化といった既存の観光資源に加え、「佐久島アート」や「西尾パフェ」、「西尾かき氷」など、若い世代をターゲットにした商品開発にも積極的に取り組み、観光振興を図ってきました。

近年、本市は、TVをはじめとするマスメディアに多く取り扱われるとともに、市外からも多くの方が訪れています。しかし、マスメディアに取り上げられた特産品のみに乗客があり、ほかの観光資源が生かされていない状況にあります。あらゆる観光資源を生かすためには、市内を周遊して特産品や自然、歴史、文化を楽しめる観光ルートを構築する必要があります。

また、これまでの手法だけに頼らず、「西尾に来ると新しい魅力が発見できる」と言っていたけりような、新たな分野や取組による誘客を図る必要があります。

⑤ 指標

| 指標名 | 現状値 | 5年後 | 10年後 |
|--|---------------------|---------------------|---------------------|
| 111 観光入込客数【年間】 | 264 (2021年) | 400 (2026年) | 450 (2031年) |
| 112 エコツアー ^{※36} への参加者数【年間】 | 815 (2021年度) | 2,500 (2026年度) | 3,000 (2031年度) |
| 112 eスポーツ ^{※37} イベント・大会参加者数【年間】 | 0 (2021年度) | 1,000 (2026年度) | 3,000 (2031年度) |
| 113 フィルムコミッション ^{※38} による撮影誘致数【年間】 | 0 (2021年度) | 15 (2026年度) | 30 (2031年度) |
| 114 佐久島渡船の利用者数(島民除く)【年間】 | 163,554 (2021年度) | 192,000 (2026年度) | 220,000 (2031年度) |

⑥ 施策の展開方向

01 観光ルート・観光客受入環境の整備 [111]

①市内観光、広域観光の新たな誘客を目指すモデルコースの開発とそのブラッシュアップに取り組みます。
②各種文化の継承や保存、活用、PRを推進します。
③アジア競技大会を見据え、ユニバーサルデザイン^{※39}の推進など、受入環境の整備に取り組みます。
④西尾駅周辺、道の駅をはじめ、主要な拠点における観光機能の充実を図るとともに、利用者が増加している道の駅にお阿ノ山の駐車場の拡充に取り組みます。
⑤歴史文化エリアとして、西尾城跡、岩瀬文庫や市内各所の史跡を、西尾の歴史や文化を味わうことのできる観光ルートとして構築することを推進します。

02 観光メニューの創出 [112]

①観光コンテンツ開発とそのブラッシュアップに取り組みます。
②三河湾国立公園をはじめとした豊富な自然を生かしたグリーンツーリズムを推進します。
③新たな分野として、eスポーツツーリズムの構築を目指し、誘客を図ります。

03 西尾の魅力のPR [113]

①ビッグデータを活用し、ターゲットを絞ったPRとマーケティング^{※40}を推進します。
②全国各地の物産展でのPRを継続するとともに、フィルムコミッションによる撮影誘致を推進し、新たな取組による本市のPRや誘客を図ります。
③地域で伝承されてきた伝統文化の保護育成を支援し、地域ぐるみで文化を育て、その魅力を広く発信します。

04 佐久島観光の推進 [114]

①地域の自然や文化を生かした観光地づくりを行い、際りてアートに出会う島づくりを推進します。
②島の環境保全活動を生かしたサステナブル^{※41}な観光地を形成します。
③ゆとり溢れる島時間を生かしたワーケーションを推進します。
④佐久島の歴史・自然・アートを生かすとともに、それらを融合させることによる佐久島が生み出す独自性を島の魅力としてPRします。

⑦ 共創の考え方

観光協会、スポーツ協会、文化協会が連携する西尾市観光・スポーツ・文化共創会議(通称「西尾市TSCボード」といった「多様な立場の人たちと新しい価値を『共』に『創』り上げていく」考えのもと、民間事業者や団体と連携し、新たな分野にも挑戦し、市内外に向けて観光プロモーションをブラッシュアップしていきます。

LINE公式アカウントから様々な魅力が楽しめる構築を推進するとともに、企業、市民などと連携し、「西尾市を学ぶ」機会を設け、西尾を訪れる人々にわかりやすく伝えられるようになります。また、島を楽しめる中で、関係人口との関わりを深め、持続可能な事業を行っています。

施策1 観光

●関連するSDGs

P40

施策2 歴史文化

●関連するSDGs

P42

施策3 スポーツ

●関連するSDGs

P44

施策4 商工業

●関連するSDGs

P46

施策5 農水産業、地域ブランド

●関連するSDGs

P48



施策1
観光

●関連するSDGs



目指す姿

自然・歴史・文化に彩られた 観光のまち

現状と課題

風光明媚な三河湾に代表される自然、抹茶やうなぎなどの食、一色大提灯や鳥羽の火祭りなどの伝統文化といった既存の観光資源に加え、「佐久島アート」や「西尾パフェ」、「西尾かき氷」など、若い世代をターゲットにした商品開発にも積極的に取り組み、観光振興を図ってきました。

近年、本市は、TVをはじめとするマスメディアに多く取り扱われるとともに、市外からも多くの方が訪れています。しかし、マスメディアに取り上げられた特産品のみを集客があり、ほかの観光資源が生かされていない状況にあります。あらゆる観光資源を生かすためには、市内を周遊して特産品や自然、歴史、文化を楽しめる観光ルートを構築する必要があります。

また、これまでの手法だけに頼らず、「西尾に来ると新しい魅力を発見できる」と言ってもらえるような、新たな分野や取組による誘客を図る必要があります。

指標

| 施策コード | 指標名 | 現状値 | 目標値 | |
|-------|--|---------------------|---------------------|---------------------|
| | | | 5年後 | 10年後 |
| 111 | 観光入込客数[年間] 【万人】 | 264 (2021年) | 400 (2026年) | 450 (2031年) |
| 112 | エコツーリズム ^{※36} への参加者数[年間] 【人】 | 815 (2021年度) | 2,500 (2026年度) | 3,000 (2031年度) |
| 112 | eスポーツ ^{※37} イベント・大会参加者数[年間] 【人】 | 0 (2021年度) | 1,000 (2026年度) | 3,000 (2031年度) |
| 113 | フィルムコミッション ^{※38} による撮影誘致数[年間] 【件】 | 0 (2021年度) | 15 (2026年度) | 30 (2031年度) |
| 114 | 佐久島渡船の利用者数(島民除く)[年間] 【人】 | 163,554 (2021年度) | 192,000 (2026年度) | 220,000 (2031年度) |

※36 エコツーリズム：観光旅行者が自然観光資源について知識を有する者から案内又は助言を受け、当該自然観光資源の保護に配慮しつつ当該自然観光資源と触れあい、これに関する知識及び理解を深めるための活動のこと。

※37 e(イー)スポーツ：「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽や競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称。

※38 フィルムコミッション：映画やテレビドラマ、CMなどのロケーションを誘致し、撮影がスムーズに進行するようサポートする非営利団体のこと。

施策の展開方向

01 観光ルート・観光客受入環境の整備 [111]

- ①市内観光、広域観光の新たな誘客を目指すモデルコースの開発とそのブラッシュアップに取り組みます。
- ②各種文化の継承や保存、活用、PRを推進します。
- ③アジア競技大会を見据え、ユニバーサルデザイン^{※39}の推進など、受入環境の整備に取り組みます。
- ④西尾駅周辺、道の駅をはじめ、主要な拠点における観光機能の充実を図るとともに、利用者が増加している道の駅にしお岡ノ山の駐車場の拡充に取り組みます。
- ⑤歴史文化エリアとして、西尾城跡、岩瀬文庫や市内各所の史跡を、西尾の歴史や文化を味わうことのできる観光ルートとして構築することを目指します。

02 観光メニューの創出 [112]

- ①観光コンテンツ開発とそのブラッシュアップに取り組みます。
- ②三河湾国定公園をはじめとした豊富な自然を生かしたグリーンツーリズムを推進します。
- ③新たな分野として、eスポーツツーリズムの構築を目指し、誘客を図ります。

03 西尾の魅力のPR [113]

- ①ビッグデータを活用し、ターゲットを絞ったPRとマーケティング^{※40}を推進します。
- ②全国各地の物産展でのPRを継続するとともに、フィルムコミッションによる撮影誘致を推進し、新たな取組による本市のPRや誘客を図ります。
- ③地域で伝承されてきた伝統文化の保護育成を支援し、地域ぐるみで文化を育て、その魅力を広く発信します。

04 佐久島観光の推進 [114]

- ①地域の自然や文化を生かした観光地づくりを行い、祭りやアートに出会う島づくりを推進します。
- ②島の環境保全活動を生かしたサステナブル^{※41}な観光地を形成します。
- ③ゆっくり流れる島時間を生かしたワーケーションを推進します。
- ④佐久島の歴史・自然・アートを生かすとともに、それらを融合させることによる佐久島が生み出す独自性を島の魅力としてPRします。

共創の考え方

観光協会、スポーツ協会、文化協会が連携する西尾市観光・スポーツ・文化共創会議(通称:西尾市TSCボード)といった「多様な立場の人たちと新しい価値を『共』に『創』り上げていく」考えのもと、民間事業者や団体と連携し、新たな分野にも挑戦し、市内外に向けて観光プロモーションをブラッシュアップしていきます。

LINE公式アカウントから様々な魅力あふれる情報を提供するとともに、企業、市民などと連携し、「西尾市を学ぶ」機会を設け、西尾を訪れる人々にわかりやすく伝えられるようにします。また、島を美しくつくる会では、関係人口との関わりを深め、持続可能な事業を行っていきます。

※39 ユニバーサルデザイン：「全ての人のためのデザイン」を意味し、年齢や障害の有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすること。

※40 マーケティング：顧客のニーズを把握し、製品計画から販売経路、販売促進などを行う「製品の売れる仕組み」の総称。

※41 サステナブル：英語の「Sustain(持続する)」に接尾語の「able(～できる)」を組み合わせた造語。持続可能な、環境を壊さず利用可能な、地球にやさしいという意味がある。

施策2

歴史文化

●関連するSDGs



目指す姿

歴史や文化を享受して暮らせる成熟したまち

現状と課題

西尾市文化会館を文化振興の拠点として位置づけ、市民の生活に文化芸術が浸透するよう事業を行ってきました。文化芸術をより身近に感じられる機会を創出していくために、西尾市文化会館は2023年度（令和5年度）・2024年度（同6年度）に大規模改修を行います。改修を契機に、これまで以上に市民ニーズに応じた文化振興事業の推進を図り、施設の指定管理を含め、新たな取組を展開する必要があります。

西尾城跡の歴史を中心に紹介する市資料館が2021年（令和3年）にリニューアルオープンした一方で、岩瀬文庫や塩田体験館、旧糟谷邸などの建物や設備が改修の時期を迎えています。また、岩瀬文庫と図書館、鶴城公園は駐車場を共用しており、駐車場の配置や使いやすさを含めた敷地の再整備が課題となっています。

岩瀬文庫や一色学びの館などの企画展示や、歴史・文化財に関する各種講座や講演会の充実に努めるとともに、「新編西尾市史」全14冊のうち通史編1冊、資料編3冊をこれまでに刊行しました。市史の調査を通じて収集した古文書などの歴史資料の保管場所や今後の活用方法について検討していく必要があります。

土地の開発事業や史跡の保存に伴う発掘調査件数は年々増加傾向で、出土品の整理作業のための人材や予算の確保、また耐用年数を過ぎた文化財収納施設の移転先を確保する必要があります。

指標

| 施策コード | 指標名 | 現状値 | 目標値 | |
|-------|---|--------------------|---------------------|---------------------|
| | | | 5年後 | 10年後 |
| 121 | 文化振興事業への参加者数[年間] 【人】 | 2,429 (2021年度) | 2,700 (2027年度) | 3,000 (2032年度) |
| 122 | 文化会館、歴史公園(旧近衛邸、尚古荘)の利用者数[年間] 【人】 | 87,487 (2021年度) | 144,750 (2027年度) | 202,000 (2032年度) |
| 122 | 岩瀬文庫、市資料館、一色学びの館展示室、旧糟谷邸、尾崎士郎記念館、塩田体験館の入館者数[年間] 【人】 | 64,523 (2021年度) | 100,000 (2027年度) | 120,000 (2032年度) |
| 123 | 歴史・文化財講座への参加者数[年間] 【人】 | 527 (2021年度) | 1,000 (2027年度) | 1,200 (2032年度) |
| 124 | 発掘調査件数[年間] 【件】 | 14 (2021年度) | 15 (2027年度) | 16 (2032年度) |



施策の展開方向

01 市民文化の創造と芸術文化活動の推進 [121]

- ①誰でも、どこでも、いつでも文化芸術に触れられる機会を創出します。
- ②子どもたちの将来への先行投資として文化芸術の振興を図ります。
- ③社会課題の解決に結び付く戦略的な事業を展開します。
- ④ビッグデータを活用し、ニーズに寄り添った文化振興事業を企画します。

02 文化・展示施設の整備 [122]

- ①文化会館は、誰でもいつでも交流できる施設を目指し、2023年度（令和5年度）・2024年度（同6年度）に大規模改修を行い、文化芸術の情報発信拠点として、施設利用の利便性を向上させ、利用者の増加を図ります。
- ②岩瀬文庫や塩田体験館などの展示施設のメンテナンスを計画的に実施するとともに、各展示施設の常設展示を更新するなどにより内容の充実を図ります。
- ③出入り口の狭さや配置などが不便な岩瀬文庫・図書館・鶴城公園の共用の駐車場を含む敷地を、使いやすいように再整備します。
- ④老朽化が著しい文化財収納施設の移転先を確保できるよう、出土品の保存活用のあり方を検討し、関係各所と調整を図ります。

03 文化財・史跡の保存・活用 [123]

- ①岩瀬文庫旧書庫・おもちゃ館の保存修理を進め、歴史的建物を生かした周辺環境整備を行います。
- ②西尾城本丸や二の丸、大手門跡を含む城下町地区全体の整備を進め、城下町の雰囲気を感じながら散策できるまちを目指します。
- ③佐久島の古墳など特色ある史跡の整備や、正法寺古墳やとうてい山古墳など地域を代表する歴史遺産の適切な管理や活用に努めます。
- ④魅力的な企画展示や講座などの開催に加え、動画配信など新たな手法も用いて地域の歴史や文化財についての情報発信を行います。
- ⑤市内の伝統文化、無形民俗文化財をデータベース化して公開し、その魅力を発信することによって、後継者の育成につなげます。

04 文化財の調査・保護 [124]

- ①歴史的な価値の高い資料の保存・活用を推進するため、積極的な文化財の指定を目指します。また旧糟谷邸など重要な文化財の総合的な調査を行い、国重要文化財や県指定への昇格を働きかけます。
- ②開発事業に伴う遺跡の発掘調査や、遺跡の状況の把握を目的とする試掘確認調査を行い、発掘調査報告書の刊行を進めます。
- ③本市が誇る古典籍の宝庫である岩瀬文庫の蔵書の調査を行い、成果をデータベースや企画展、講座などで公開し、さらなる活用につなげます。
- ④本市の歴史文化を伝え、学ぶための基礎となる市史の編さんを進めるとともに、収集した資料の公開・活用を図ります。

共創の考え方

文化会館指定管理者、文化協会及びその他の団体と連携し、市民生活に芸術文化が浸透するよう、各種事業を推進します。
文化財の所有者や民俗文化財の保存会をはじめ、市民ボランティアなどの各団体との連携を深め、地域ぐるみで文化財、史跡、伝統文化を継承し、魅力を発信します。

施策3

スポーツ

●関連するSDGs



目指す姿

スポーツを通じて健康で豊かな心とからだを育て、スポーツで元気になるまち

現状と課題

2021年（令和3年）に「スポーツ都市」を宣言し、スポーツを愛し、スポーツを通じて健康で豊かな心とからだを育て、「スポーツで元気になるまち西尾」を築くための取組を進めています。

一方、市内のスポーツ施設の状況をみると、多くの施設で老朽化が進み、求められる機能が不足しているため、施設の再編を図る必要があります。施設の改修や統廃合、新しい施設の整備も含めて「スポーツまちづくりビジョン2040^{※42}」により、計画的に進める必要があります。

また、誰もがスポーツを愛し、スポーツを通じて健康で豊かな心とからだを育てられるよう、障害者がスポーツに参加できる機会の提供やスポーツ指導者の育成、トップレベルのスポーツを観戦する機会の提供など、市民ニーズにあった取組を推進していく必要があります。

指標

| 施策コード | 指標名 | 現状値 | 目標値 | |
|-------|--|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| | | | 5年後 | 10年後 |
| 131 | 総合型地域スポーツクラブ ^{※43} 加入者数 [4月1日時点] 【人】 | 1,946 (2021年度) | 2,190 (2027年度) | 2,600 (2032年度) |
| 131 | スポーツ教室参加者数[年間] 【人】 | 1,077 (2021年度) | 1,430 (2027年度) | 1,600 (2032年度) |
| 132 | スポーツ施設利用者数[年間] 【人】 | 1,257,633 (2021年度) | 1,900,000 (2027年度) | 2,000,000 (2032年度) |
| 133 | プロスポーツなどの大会、イベント開催数 [年間] 【回】 | 3 (2021年度) | 6 (2027年度) | 8 (2032年度) |
| 133 | (一社)西尾市スポーツ協会公認 スポーツ指導者数[4月1日時点] 【人】 | 128 (2021年度) | 250 (2027年度) | 400 (2032年度) |

※42 スポーツまちづくりビジョン2040：市民がスポーツに親しみ、心豊かな生活が送れるように、市民の活動ニーズに合わせた施設を整備し、活発なスポーツ活動ができる環境整備を推進するためのビジョンのこと。

※43 総合型地域スポーツクラブ：日常的に活動拠点となる施設を中心に会員である地域住民の子どもからお年寄りまで個々のニーズに応じた活動が、体力、技術レベルに応じた定期的・継続的に行えるスポーツクラブのこと。

施策の展開方向

01 スポーツを核とした元気な健康まちづくり

[131]

- ①多様な市民ニーズに応えるため、官民連携によりスポーツを行う機会を提供します。
- ②生涯スポーツ^{※44}から競技スポーツ^{※45}まで、指導者の人材発掘や育成、資質向上に努めます。
- ③スポーツボランティアのさらなる普及と人材の育成を図ります。
- ④既存の総合型地域スポーツクラブなどの自立に向けた支援を継続します。
- ⑤学校の部活動を、外部指導者を配置して行う地域部活動への移行に対応できる体制づくりを図ります。

02 多様なスポーツに対応した施設の整備促進

[132]

- ①多様なスポーツに対応するため、「スポーツまちづくりビジョン2040」による施設整備を計画的に進めます。
- ②障害者スポーツの普及を進めます。
- ③スポーツ環境整備のため施設使用料や施設予約システムを見直します。
- ④スポーツ施設の整備基金の計画的な積み立てを図り、施設整備を計画的に進めます。

03 競技スポーツの振興・連携

[133]

- ①プロの技術をより身近で体感できる環境整備により、プロスポーツやトップアスリート^{※46}を招いたスポーツイベントや大会を積極的に誘致します。
- ②プロスポーツ観戦やにしおマラソンなどへの参加者を増やすために、観光協会、文化協会との連携により、観光文化資源を活用し、新たなスポーツツーリズムを推進します。
- ③日本全国や世界で活躍できるトップアスリートの育成に努めます。

共創の考え方

スポーツを通じて健康で豊かな心とからだを育て、「スポーツで元気になるまち西尾」を築くため、市民の活動ニーズや意見などに配慮し、誰もが気軽にスポーツに親しむことができる環境の整備など、スポーツを核とした元気な健康まちづくりについて、(一社)西尾市スポーツ協会をはじめとする各種団体と推進します。

また、スポーツを楽しむだけでなく、観光協会、文化協会とも連携し、本市の観光文化資源を体感できるツーリズムを構築していきます。

※44 生涯スポーツ：健康の保持増進やレクリエーションを目的として、「生涯を通じて、いつでも、どこでも、誰でも」親しめるスポーツのこと。

※45 競技スポーツ：スポーツ技術や記録の向上を目指し、人間の極限への挑戦を追求する選手のスポーツ（この最高峰といわれる国際大会がオリンピック・パラリンピック）のこと。

※46 トップアスリート：球技や陸上、水泳などの競技で、最高水準の実力をもち、一流と認められている運動選手のこと。

施策4
商工業

●関連するSDGs



目指す姿

経済活動が活発で、投資も継続的に 行われ、事業の高度化・多角化が進んでいるまち

現状と課題

これまで企業誘致を積極的に行ってきたおり、自動車産業を中心として多くの企業誘致に成功してきましたが、昨今の激化する水害のハザードリスク^{※47}が顕在化し、これまでどおりの企業誘致は困難な状況となっています。今後は進出意向のある企業の相談に迅速に対応できるような工業用地を確保するとともに、市内企業の市外流出を防ぐための企業留置の対策も進めていく必要があります。

また、カーボンニュートラルやSDGsなどの社会課題への対応、自動車のEV^{※48}化やデジタル技術の進化などにより、今後の産業構造や世の中のライフスタイルが大きく変化することが予測されています。これらに対応するため市内企業や創業者への支援を行う必要があります。

市民生活では、自動車中心の社会となっており、郊外型店舗などでの消費が増加し、にぎわいの中心であったまちなかが寂れてきています。このまちなかににぎわいを取り戻し、市民活動や事業活動の場としての付加価値を高め、継続的な投資が行われるまちなかとするのが求められています。

消費生活における契約トラブルは、生活様式の変化により複雑かつ多様化しています。市民がトラブルに巻き込まれることがないよう消費生活に関する情報を発信するとともに、身近な相談窓口を維持していくことが求められています。

指標

| 施策コード | 指標名 | 現状値 | 目標値 | |
|-------|--|-------------------|-------------------|-------------------|
| | | | 5年後 | 10年後 |
| 141 | ビジネス支援拠点の相談件数[年間] 【件】 | 0 (2021年度) | 2,000 (2027年度) | 3,500 (2032年度) |
| 141 | 展示会の新規出展社数[年間] 【社】 | 3 (2021年度) | 5 (2027年度) | 5 (2032年度) |
| 142 | 企業立地件数[年間] 【社】 | 6 (2020年度) | 6 (2027年度) | 6 (2032年度) |
| 143 | 中心市街地への来訪者数[日平均] 【人】 | 3,016 (2021年度) | 4,000 (2027年度) | 5,100 (2032年度) |
| 144 | 創業者数[年間] 【人】 | 21 (2021年度) | 25 (2027年度) | 25 (2032年度) |
| 145 | 合同企業説明会などの参加企業の採用率[年間] 【%】 | 70.4 (2021年度) | 75 (2027年度) | 80 (2032年度) |
| 145 | 女性活躍推進法・次世代育成支援対策推進法に基づく認証・登録企業数[年間] 【社】 | 65 (2021年度) | 70 (2027年度) | 75 (2032年度) |
| 146 | 消費生活に関する情報の発信件数[年間] 【件】 | 360 (2021年度) | 365 (2027年度) | 365 (2032年度) |

※47 ハザードリスク：危険を及ぼす要因（ハザード）と、それによって生ずるおそれのある事象の可能性の度合い（リスク）。

※48 EV（イー・バイ）：「Electric Vehicle（エレクトリック・ビークル）」の略。電気自動車のこと。

施策の展開方向

01 持続可能な経営の支援 [141]

- ①事業者の抱える様々な課題を解決します。
- ②販路拡大のための展示会出展を支援します。
- ③事業者のDX導入を支援します。

02 攻めの企業誘致 [142]

- ①工業用地を探している事業者の相談を受け、工場用地の確保と工場立地がスムーズに進むように伴走支援をします。
- ②企業に補助金を交付し、市内企業の流出防止と市外企業の誘致を促進します。
- ③市内・近隣企業との関係性を強化し、新たな工場立地などの相談を受けることができるようにします。

03 中心市街地の活性化 [143]

- ①市民や商業者と連携し、中長期を見据えたまちなかのビジョンを作成し、中心市街地ににぎわいを取り戻すための事業を推進します。
- ②中心市街地の空き店舗を活用し、活性化を図ります。

04 起業・創業・新産業創出の支援 [144]

- ①起業・創業を考えている人を対象に、セミナーなどを開催し支援します。
- ②製品や新サービスを開発するための支援をします。
- ③ビジネスマッチングのネットワークを構築し、事業者の新分野参入を支援します。

05 雇用の確保・雇用環境の整備 [145]

- ①企業の人材確保に向け、高校生や大学生とのマッチングを促進します。
- ②労働講座やセミナーなどを開催し、誰もが多様な働き方を実現できる職場環境の整備を支援します。

06 消費生活の向上 [146]

- ①複雑・多様化する相談に対応できる相談体制を維持します。
- ②消費者トラブルを防止するため、消費生活に関する情報を発信します。

共創の考え方

企業や支援団体、市民がそれぞれに持っている「人・モノ・情報」などを持ち寄り、異なる視点や価値観を持っていることを前提に意見を出し合う場を設置し進めていきます。



施策5

農水産業、地域ブランド

●関連するSDGs



目指す姿

新技術導入により、生産性が 生かした持続可能な水産業

向上した稼げる農業、豊かな海を のあるまち

現状と課題

地域ブランド^{*49}にもなった抹茶をはじめ、米や麦、大豆といった穀物や果物、野菜、花き、畜産など多種多様な農産物を生産する農業が盛んな土地柄です。しかし、資材や燃油などの高騰、肥料原料の不足、販売価格の低迷といった、経営を継続することへの不安などにより、農業者が減りつつあります。このままでは、産業として衰退してしまう恐れがあるため、新規就農者の育成が急務となっています。魅力ある農業の実現のため、スマート農業に取り組む農家も出てきていますが、その効果などの実証が不十分であり、普及するまでには至っていません。そのため、スマート農業の効果の実証や導入の支援など、農業の魅力を高めるための支援を行っていく必要があります。

また、豊かな三河湾に面し、地域ブランドのうなぎの養殖やあさりの採貝など、様々な水産業が盛んに行われています。しかし、三河湾の漁獲量は減少傾向にあり、漁業資源の維持回復のために、あさり稚貝や親うなぎなどを放流する活動や、波による砂の移動を抑制するためのポール設置などを行っていますが、十分に回復していない状況となっています。持続可能な漁業としていくためには、「獲る」から「育てる」視点へと転換し、漁業資源を管理していく必要があります。

一色さかな広場については、市内外からの来訪者が多く、水産業をはじめとする地元産品の魅力を発信できる場所となっています。しかし、現在、その機能が十分に発揮できていないことから、発信力を強化していく必要があります。

指標

| 施策コード | 指標名 | 現状値 | 目標値 | |
|-------|---------------------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| | | | 5年後 | 10年後 |
| 151 | AIやIoTなどの新技術を導入している経営体数[累計] 【戸】 | 37 (2021年度) | 150 (2026年度) | 300 (2031年度) |
| 152 | 農業水利施設更新整備数[累計] 【地区】 | 33 (2021年度) | 39 (2027年度) | 44 (2032年度) |
| 153 | 新規就業者[累計] 【人】 | 20 (2021年度) | 60 (2026年度) | 100 (2031年度) |
| 154 | 西尾産農畜水産物を優先購入する人の割合 【%】 | 45.0 (2021年度) | 60 (2026年度) | 70 (2031年度) |
| 155 | ふるさと納税の納税額[年間] 【億円】 | 15 (2021年度) | 25 (2027年度) | 27 (2032年度) |
| 155 | 一色さかな広場入込客数[年間] 【人】 | 637,900 (2021年) | 725,000 (2026年) | 735,000 (2031年) |

*49 地域ブランド：地域の特徴を生かした商品やサービスの開発、高付加価値化と、地域そのもののイメージを結びつけながら、地域全体で取り組むことにより、ほかの地域との差別化された価値を生み出し、その価値が広く認知され求められるようになること。

施策の展開方向

01 魅力ある農・水産業の実現 [151]

- ① AI、IoTなど新しい技術の導入を支援することで、多品種において、高品質化、生産量の増加などを旨し、全国有数の生産を誇る特産品の産地を維持します。
- ② 持続可能な農業を推進するため、二酸化炭素排出量を削減するなど環境にやさしい農業と、堆肥と飼料の地域での循環型農業の推進のため、耕畜連携を支援します。
- ③ 農業・畜産業・水産業の6次産業化や高付加価値化を支援します。

02 生産基盤の確保と整備 [152]

- ① 排水機場や排水路の改修を行い、農地のたん水被害防止に努めます。
- ② 農地の区画を整形し大区画化を行うとともに、道路・水路の改修など農業生産基盤を整備し、農業経営の改善と安定を図ります。
- ③ 一色産うなぎに重要な矢作古川の水を送る養鰻水道の維持を支援します。

03 経営基盤の安定と担い手の育成 [153]

- ① 青年就業者や定年帰農者など新たな担い手の育成を支援します。
- ② 優良農地の確保に努め、農地の利用集積・集約化を進めるとともに、遊休農地の利活用を図ります。
- ③ 稚貝や稚魚の放流などにより資源を管理し、「獲る漁業」から「育てる漁業」への転換と海域の環境整備を支援します。

04 地産地消の推進 [154]

- ① 外国産品やほかの産地との差別化を進めることにより「地産地消」を促進し、「安全安心」な農畜水産物の提供を支援します。
- ② 教育ファーム事業など食に関わる体験を通じて、食の大切さや地域の農畜水産物に対する愛着や誇りの醸成を図ります。
- ③ 農畜水産物の即売会やイベントを通じて、生産者と市民などとのふれあいによる地産地消の推進を支援します。

05 ブランド化の推進とPR [155]

- ① 地域産品の発掘や新たな特産品の開発を支援するとともに、効果的な販路の開拓を支援します。
- ② 憩の農園、道の駅にしお岡ノ山など来訪者が多い施設で情報を発信し、西尾市の知名度向上と地域イメージの形成を図ります。
- ③ 県内外で開催される物産展への出展、海外プロモーションを実施します。
- ④ 高品質で魅力のある特産品の特色や独自性を積極的にPRします。
- ⑤ 一色さかな広場の運営管理について抜本的な改革を進めていきます。

共創の考え方

農業・畜産業・水産業の生産技術や集出荷体制の変化に対応するため、生産者と関係団体が主体となって新しい技術や仕組みづくりに取り組みます。行政は、情報共有を図りながら、営農環境や漁業の操業環境の整備を推進します。

地域ブランドについては、事業者や産業団体が主体となって、商品のブランド力を高めるため、品質の向上や新たな関連商品の開発、ブランドのPRなどに取り組みます。行政は、それらの取組を支援するとともに、観光や市政の情報を発信し、特産品と地域の魅力がつながるような地域イメージを形成します。